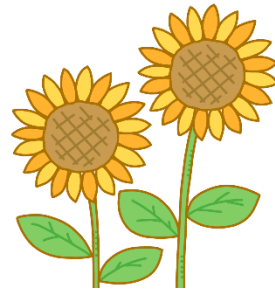


よらい、や
やらい、や

公民館



いつまでも元気 の秘訣

先日、高校1年の時の担任の先生に、同窓会の幹事団5人で会いに行きました。50年振りです。当時35歳だった先生が85歳になり、杖をついていらっしゃいました。

最初のうちは、私たちのことを思い出せないようでしたが、高校の話をしているうちに、「あのとき〇〇君がこう言ったな！」

「わしが〇〇と言ったから、ずっとそのままだった」

などと具体的に思い出してこられ、盛り上がってきました。先生の顔も50年前の顔に戻ってきたように見えました。他の幹事も同じことを感じたようです。しっかりお話をし、記念撮影をして帰りました。

「最初はおどおどして何か不安そうだったけど、最後は全く表情が変わったな。」などと口々に話しました。元気を保つには運動、睡眠、頭を使う・・・いろいろ必要なことがありますが、【いつも一緒にいる人ではない人と話をする】ことも大切と強く感じました。

9月15日(月)に、まちづくり協議会主催の「シニアの集い」を公民館で初めて開催します。長寿を祝うための敬老会とは違い、「いろんな人と話をする機会」というコンセプトで行います。気軽に参加して、元気になってほしいと思います。

とくさんの田んぼ日記



「草刈り」ではなく「草取り」!!

今回は「草取り」の話です。田んぼには除草剤を蒔くので草は生えないはずですが、除草剤を蒔かないと写真のような状態になります。どこに稲があるのか分かりません。そこで草取りが必要になります。まず、田んぼ用の長靴に履き替えるのですが、水が張ってあるのでゴム輪を付けるようにと言われました。何でゴム輪が必要なのか分かりませんでしたが、実際にやってみて意味が分かりました。一歩踏み出そうとすると泥に足が埋まって、長靴が脱げそうになるのです。そこで、足首とつま先とをゴム輪で固定すると脱げにくくなるのです。稲の列の間に雑草が生い茂っているので、それをカマで取っていくのですが、稲と雑草の見分けも付きにくく、靴も脱げそうになって大変でした。除草剤を使わないとどういうことになるか、身をもって感じました。この作業を草がなくなるまでやるのです・・・暑い、腰が痛い・・・



草が多くて田んぼには見えない

シリーズ 知っていましたが、青谷のこと?

血染めヶ池の伝説

長尾鼻に「血染めヶ池」と呼ばれる岩場の水溜まりがあります。「血染め」なんて怖い感じがしますが、何でそう言われるのかご存知ですか?

青谷の定説

大国主命と八上姫は、長尾鼻でデートの待ち合わせをしていました。大国主命が海に足をつけて八上姫を待っていると、サメに足を噛まれて血が出ました。大国主命は慌てて近くの池で足を洗うと、不思議なことに血が止まりました。

こうして、その池は「血染めヶ池」と呼ばれるようになりました。

伝説には他のストーリーもあります。因幡の白ウサギの話と組み合わせて、サメが「ワニザメ」になり、ワニザメが八上姫を襲ったとき、大国主命がワニザメを切り殺して八上姫を助け、ワニザメの赤い血が池となったという説もあります。

中町にある潮津(うしおづ)神社には、血染めヶ池で足を癒したと伝わる大国主命と八上姫が祀られています。ということは、血染めヶ池の血はワニザメのものではなく、大国主命の血ということになります。どうも青谷の定説の方が、筋が通っているように思えますね。



血染めヶ池 ここまで来るのはやや危険だが、ぜひ見てみたい所

平和のための写真展 in あおや

- ☆期間 8月5日(火)～8日(金)
- ☆会場 青谷地区公民館 研修室1
- ☆内容 原爆パネルと原爆の絵を展示

ようこそまつり打ち上げ花火 募金箱置いてます

昨年度の花火は凄かったですね。今年も見たいという方は募金にご協力ください。玄関に募金箱を置いています。

《主催：青谷ようこそまつり実行委員会》

おわりに

日本海テレビの「新ふるさと百景」に、駅前の菖蒲綱引きが放映されました。宝木のものと対比させて編集してありました。綱の編み方に大きな違いがあり、宝木の綱は端っこにだけに菖蒲や萱を編み込んでいました。青谷の綱は、菖蒲と萱とヨモギと藁を適度な割合で組み合わせて編みます。また、宝木では、地域を新町と古町の2つに分けて綱引きの勝負をしていました。このような伝統行事は、人から人へ繋がらないと途切れてしまいます。大切なことは繋げて残しましょう。